別添資料1

2027年国際園芸博覧会　テーマ

テーマ

幸せを創る明日の風景

Scenery of the Future for Happiness

自然を活用した解決策 ＝ Nature-based Solutions
自然・人・社会が、共に持続するための最適解

昨今、世界の多くの人々が、プラネタリー・バウンダリー（地球の限界）を意識し、これからの私たちの幸せな生き方を模索し始めています。そこで基本となるのは、Nature-based Solutions＝自然を活用した解決策、という考え方。私たちが生きる地球環境の基盤である自然、植物への理解を深め、私たちもその一部として、共に明日へと生きていくための方法論です。自然・人・社会が「共に持続するための最適解」を神奈川・横浜の面積約100haの開催地で描きます。

2027年国際園芸博覧会　サブテーマ

サブテーマ

自然との調和	緑や農による共存	新産業の創出	連携による解決
Co-adaptation	Co-existence	Co-creation	Co-operation

テーマを展開し、具現化するための切り口として、4つのサブテーマを設定しています。
生態系サービスに支えられている人と自然の新たな関係を構築するための基盤とそれを支える主体の将来像を示す観点から「自然との調和」及び「緑や農による共存」を、また、これに基づく心の豊かさや幸せがあふれる都市の持続可能性を示す観点から、新たな価値創造による「新産業の創出」を、さらに、新たな価値を生み出し課題解決につなげる多様な主体の参加システムの在り方として「連携による解決」を示すことにより、本博覧会において「幸せを創る明日の風景」を体現していきます。

2027年国際園芸博覧会　サブテーマ

自然との調和
Co-adaptation

日本の里山にみられる自然との共生、再生循環の知恵や、災害大国としての経験を生かし、自然の力を導入し、造営物によるインフラを補完するグリーンインフラにより、持続可能で安全かつ魅力ある都市の土台づくりを世界に向けて提案します。

緑や農による共存
Co-existence

自然を愛しみ、自然を暮らしに生かす農業文化やシェアリングエコノミーの原型ともいえる日本の農の心に学びつつ、緑や農を介して、社会・生活基盤の維持に一人ひとりが積極的に関わることにより、ともに分かち合い支え合う「グリーンコミュニティ」の在り方を提案します。

新産業の創出
Co-creation

国際園芸博覧会を実験の場とし、花き園芸・農の高付加価値化や新技術・新品種の創出、異業種連携による生命産業の領域拡大など、時代の先駆けとなる新たな価値を創造する産業の創出・育成を提案します。

連携による解決
Co-operation

国内外の企業や教育・研究機関、市民を含む多様な主体や国際的ネットワーク等による横断的な参加システムを構築し、世界的な課題の解決につながる知恵や技術を集積し、各国の人々と相互に発信・交流・シェアすることで、多文化共生や友好と平和、多様性を尊重する社会の実現に寄与します。

【参考】2027年国際園芸博覧会　参加ガイドライン

第1章　1.1 テーマ

本博覧会のテーマは、『幸せを創る明日の風景』である。

人類は生態系の一員であり、私たちの暮らしは常に生命圏（Biosphere）の基盤である自然、とりわけ、その中心である植物の恵みに支えられてきた。しかし、生態系の存続を支える地球環境の容量には限界がある。人類の社会経済的な豊かさの追求の結果、生物多様性の損失 、進行する気候変動、様々な自然災害の甚大化・頻発化等、人類の生存を脅かす共通課題が顕在化している。途上国を中心として世界の人口増加が予測される中、食料を確保するために農業の生産性向上が必要となっている。

このような中、自然が有する機能を持続可能に利用し、多様な社会的課題の解決につなげる考え方（NbS :Nature-based Solutions）の実行への期待が高まっている。こうした考えに基づく取組を通じ、生態系が適切に保たれ、自然の恵みを将来にわたって享受できる環境共生社会を実現することが重要となっている。こうした潮流は、SDGs、生物多様性の保全・持続的な利用などの世界的な取組とも呼応している。

我々人類は、植物をはじめとした自然に生かされており、生命の潮流と循環の中で生きている。植物は、酸素の供給源等として生命の基盤となっているだけでなく、水質浄化や気候の調節、自然災害の防止や被害の軽減等の重要な役割を担っている。また植物は、衣食住を中心とした産業、観光・レジャー産業、健康、医療、創薬産業など、さまざまな産業の礎となっている。さらに、植物と共に生きることで様々な暮らしの知恵、技術、文化が育まれてきた。すなわち、花や緑、農、食は、異なる思想や世代、国境を越えて人々の心を躍らせ、幸福感をもたらす。それらは、人々の心に自然への敬意を育み、自然と調和した価値を創造する。

本博覧会は、地球規模の気候変動や生物多様性の損失等の国際社会の共通課題を踏まえ、以下の取組を通じて、人々の幸福感が深まる社会を創造することを目指す。

- 自然環境の多様な機能を日々の暮らしに活（い）かす自然との関わりを通じて、世界中で育まれてきた知恵や文化を再評価し、持続可能な社会の形成に活用するためのアイディアを共有すること。
- 園芸に関する文化を世界的に普及すること。
- 花、緑、農が身近にあり、豊かな心を育む暮らしの実現を探求すること。
- 多様な主体の参画を促すこと。

これらの取組を推進するにあたっては、望ましい未来を思い描き、現在を見ながら行動する、バックキャスティングの視点で思考することが重要であることにも留意する。
国際園芸博覧会は、地球規模の環境問題を含む国際的な課題の解決策を提案し、未来の社会を発展させる役割を果たすことができると考えている。国際園芸博覧会は、新たな視点、価値、産業分野を提示し、自然空間の重要性を再認識する一助となる。国際園芸博覧会は、花や緑、農が本来的に有する循環の原理、あらゆる種類の植物を育む価値、これらが如何にして様々なレベルで人々に恩恵をもたらすのか、及び人類への文化的、精神的な恩恵を重視する。また、国際園芸博覧会は、参加型の実証の場とすることで、現代社会に及ぼす自然の効果について参加者の意見を求める場となる。

本博覧会のテーマには、住む人の心を育む風景を創造するという日本・神奈川・横浜の願いが込められている。このような社会では、自然との共生や人との絆から、より深い幸福感を追求することができる。ひとりひとりが自身の心に幸せの種を蒔き、それを他者や環境との関わりの中で育むことで、個々人、ひいては地域全体が花壇のように生き生きとした花を咲かせるという、個性豊かに多彩な花を咲かせることと好循環が形成されることとなる。

【参考】2027年国際園芸博覧会　参加ガイドライン

第1章　1.2 サブテーマ

テーマの実施及び展開に関し、4つのサブテーマを使用する。生態系サービスに支えられている人と自然の新たな関係を構築するための基盤と、それを支える主体の将来像を示す観点から「自然との調和」及び「緑や農による共存」をサブテーマとする。また、これに基づく心の豊かさや幸せがあふれる都市の持続可能性を示す観点から、新たな価値創造による「新産業の創出」をサブテーマとする。さらに、新たな価値を生み出し課題解決につなげる多様な主体の参加システムの在り方を示す観点から、「連携による解決」をサブテーマとする。

1）Co-adaptation（自然との調和）
　本サブテーマでは、自然環境の多様な機能を活用し、グレーインフラを補完する「グリーンインフラ」により、持続可能で安全かつ魅力ある都市づくりを探求する。本サブテーマは、自然との共生、再生、循環の知恵を活用することを重視する。

2）Co-existence（緑や農による共存）
本サブテーマでは、人と人が分かち合い、支えあう「グリーンコミュニティ」を探求する。緑や農に関わる活動を通じて、社会・生活基盤の向上に一人一人が参加することの重要性を認識する。本サブテーマは、自然に感謝し、生活に活かす農の文化に学ぶことを重視する。

3）Co-creation（新産業の創出）
　本サブテーマでは、花き園芸・農の高付加価値化、新技術・新品種の導入など、時代の先駆けとなる新たな価値を創造する産業の創出・育成を探求する。また、例えば、医学、スポーツ、芸術などとの異業種連携による生命産業の拡大を示すことも歓迎される。

4）Co-operation（連携による解決）
　本サブテーマでは、多文化共生、友好、平和、多様性を尊重する社会づくりを探求する。国内外の企業、教育・研究機関、市民を含む多様な主体や、国際的ネットワークによる連携を重視する。また、地球規模の課題の解決につながる知恵や技術を集積し、世界の人々が共有することが期待される。